平成27年度東アジアプロジェクト研究報告

○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

○研究組織

研究代表者：馬彪・高橋征仁

研究分担者：富平美波・更科慎一・根ヶ山徹・森野正弘・坪郷英彦

研究協力者：なし

○研究の概要と結果

このプロジェクトには、言語文学・社会学・歴史学という三分野の研究者が参加しており、主に、平安文学の伝承と象徴性、版本・曲譜の校合、明代官話音、明清時代の音韻観、草屋根葺き民俗、避難後の生活状況、国家の空間構造などの課題に以下の研究を行った。

1．平安期に成立した『竹取物語』の冒頭に用いられている「昔」について表現史的考察を展開した。その成果の一部は、中国貴州大学で開催された「中日言語・文化・民俗」国際シンポジウムにおいて、研究発表（下記リスト参照、以下同）を行った。一本の研究論文として刊行した。また、平安文学に散見する夢告の記事について考察を展開した。その成果の一部は、平成27年12月18日に山口大学で開催された「時間学国際セミナー」において、研究発表を行った（森野）。

2．明清両代に上梓された『牡丹亭還魂記』の版本18種、曲譜3種を校合し、研究著書を作成して刊行した。提要（「《牡丹亭還魂記》版本系統試探」）において明末から清中葉に至る版本の演変について詳述した（根ヶ山）。

3．前年度に引き続き『華夷訳語』を対象とし、その音訳漢字に反映された明代官話音を研究した（更科）。

4．『古今釋疑』巻十七に反映している著者方中履の音韻学説の特徴について、父親である方以智の学説の継承状況をも含めて、総合的な考察を行い、その音韻学書としての特色ならびに音韻学史上の意義を探った（富平）。

5．東広島市在住の草屋根葺き職人への聞き取り調査を実施した。その一部は民俗建築学会で発表予定（坪郷）。

6．沖縄県における原発避難者において、避難を考慮する際、変数減少法による意思決定をしていることがわかった。また、そうした「損切り」によって、避難･移住先への適応状況に大きな格差が生じていると考えられる。岡山県内における東日本避難者支援の現状に関する情報交換会、ほっと岡山（岡山市きらめきプラザ）で口頭発表を行った（高橋）。

7．中国の河北省・山西省・陝西省における秦漢帝国における関塞遺跡を踏査することを行った。その管理の実態と特徴を明かにしよう論文を執筆中（馬彪）。

経費は、現場の調査や資料収集、書籍の購入に使った。成果としては、一部はすでに研究雑誌や著書で公表したが、まだ整理中や公表予定となっているものもある。

○研究成果の一覧

（1）学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

・森野正弘「物語の冒頭表現が拓く異郷の時間―小さ子譚としての『竹取物語』―」、東アジア研究叢書3『東アジア伝統の継承と交流』白帝社、2016年3月30日）pp149-166

・更科慎一「『元朝秘史』の音訳漢字の声調について」、同上pp245-266

・富平美波「「切字釋疑」に見える音韻観について」、同上pp267-298

・馬彪「東アジア伝統における「統」「伝」「格」について」、同上ppⅲ-ⅹ

・馬彪「中国上古三代城郭制伝統の形成とその性格」、同上pp2-27

（2）口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

・森野正弘「物語の描く異郷の時間―過去表現としての『昔』―」中国貴州大学「中日言語・文化・民俗」国際シンポジウム、2015年10月17日

・森野正弘「平安文学における夢告と遊離魂」山口大学で開催された「時間学国際セミナー」、2015年12月18日

・高橋征仁「災害から逃げ遅れるのはなぜか？」岡山県内における東日本避難者支援の現状に関する情報交換会、ほっと岡山（岡山市きらめきプラザ）、2016年3月10日

（3）出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

・根ヶ山徹『牡丹亭還魂記匯校』山東大学出版社2015年4月p423

・馬彪・阿部泰記編『東アジア伝統の継承と交流』（東アジア研究叢書3）、2016年3月30日p298

○プロジェクト名

東アジアの教育におけるグローバル化と伝統文化

○研究組織

研究代表者：福田隆眞、葛崎偉

研究分担者：有元光彦、石井由理、鷹岡亮、田中理恵、西村正登、松岡勝彦、村上林造、森下徹、吉村　誠

○研究の概要と結果

主にアジア地域の教育の現代的課題の一つとして、グローバル化と伝統文化の問題について継続して研究を行った。グローバル化している世界における普遍的な教育内容と、地域や民族が有する伝統文化の教育内容に対して、言語、文化理解、歴史、文学、美術、心理学、教育学、情報の各分野から教育内容について調査研究を行った。

言語、文学、歴史、情報、教育、文化理解、美術の各分野において、現代的課題としてのグローバル化と伝統文化の教育について、継続的に調査研究を行い、言語、文学の分野においては、主に日本語による言語学、日本文学研究をグローバル化の観点で調査研究を行った。歴史学では都市の形成と西洋と東洋の時間の観念形成を対象にグローバル化の観点での考察を行った。文化理

解ではアジア地域の音楽教育を事例にして、比較考察を行い、美術の分野では東南アジアを含めて、西洋化と伝統文化の位置づけ、関連性について調査研究を行った。また、外国人研究員として韓国淑明女子大学の美術教育研究者である金香美教授を招聘し、グローバル化とアジアの伝統の観点から韓国と日本の美術についての研究も進めた。

○研究成果の一覧

1　教育学からの研究

・松岡勝彦・大濵貴江・兼澤準子（2015）「自閉症生徒における『乗車中は排泄を我慢する』行動への支援」『山口大学教育学部研究論叢』第64巻　第3部，261-266.

・浦川加奈・小山芙美・須藤邦彦・松岡勝彦（2015）「知的発達症のある児童における微細運動スキルの形成－『蝶々結び』に焦点をあてて－」『山口大学教育学部研究論叢』第64巻第3部，267-279.

・大石幸二（監）・松岡勝彦・須藤邦彦（2015）『先生とできる場面緘黙の子どもの支援』学苑社.

・田中理絵(2015)「仲間集団と子どもの社会化」住田正樹・高島秀樹編著『変動社会と子どもの発達』北樹出版，38-52.

・田中理絵(2015)「社会問題化する児童虐待」住田正樹・高島秀樹編著『変動社会と子どもの発達』北樹出版，139-153.

・武智康晃・チニンタアプリナ・岡谷絢子・田中理絵（2015）「教職員の意識調査（１）：若手教師への指導基準と異動時の困難に着目して」『山口大学教育学部研究論叢』第65巻　第3部，169-178.

2　教育内容からの研究

・有元光彦（2015）「共生タイプについて―九州西部方言の動詞におけるテ形音韻現象を対象として―」，『方言の研究』第1号，日本方言研究会編，ひつじ書房，185-208.

・有元光彦・井上史雄・木部暢子編著（2016）『はじめて学ぶ方言学』，ミネルヴァ書房1-293.

・有元光彦・真田信治・友定賢治編（2015）『県別　方言感情表現辞典』，東京堂出版.

・森下　徹（2015）「〈都市下層社会〉から考える地方城下町」『部落問題研究』213号，58-84.

・森下　徹（2015）「近世瀬戸内地域の新田開発にみる出稼ぎ労働」『国立歴史民俗博物館研究報告』199集，301-320.

・森下　徹「江戸の時間規律」（Workshop Timing Day and Night:Timescapes in premodern Japanでの口頭発表、於ケンブリッジ大学、2015年4月17日）

・村上林造（2015）「教育学部における文学講義の試み（３）―芸術表現について―」『青燈』第9号.

・村上林造（2015）「教育学部における文学講義の試み（４）―文学体験について―」『青燈』第10号.

・福田隆眞（2016）「インドネシアの高等学校における美術教育教材」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第41号.

・福田隆眞他（2015）「インドネシアの小学校美術教育について」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第』40号.

・福田隆眞　「東南アジアにおける美術教育の現状」（ジャカルタ州立大学美術教育セミナーでの

講演　2016年3月）

・吉村誠（2016刊行予定）『研究と教育の間―大伴家持「春愁歌」の教材化を中心として―』上代文学研究叢書，笠間書院.

・吉村誠他（2016）「中国七夕の日本における受容」JOURNAL OF EAST ASIAN IDENTITIES No.1.

・石井由理（2015）「台湾の大学生にとっての台湾の音楽」『山口大学教育学部研究論叢』第65巻第3部，1-9.

・Yuri Ishii（2015）'Globalization Viewed through School Music Education in Japan and England' 『日英教育誌』創刊号，31-47.

・L. Chen, Q.W.Ge, and Mitsuru Nakata, "Block Reconstruction for Task Graphs", INFORMATION, vol.18, no. 8, pp. 3277-3288（2015.08）.

・Q.W. Ge, Ren Wu, Mitsuru Nakata, "On Modeling Internal Organs And Meridian System Based on Traditional Chinese Medicine", Proc. BioPPN2015, pp.56-69（2015.06）.

・A.Mizuta, Q.W. Ge, H.Matsuno, "Dependent Shrink for Petri Net Models of Signaling Pathways", Proc. BioPPN2015, pp.85-99（2015.06）.

・H.Nagaoka, M. Nakata, Q.W. Ge and M. Yoshimura, "Similar Subgraph Retrieving for Japanese Historical Document Search System", Proc. ITC-CSCC2015, pp.222-225（2015.07）.

・Ren Wu, Q.W. Ge, Mitsuru Nakata, "A Simulation Model of Internal Organs and Meridian System Based on Traditional Chinese Medicine", Proc. the Seventh International Conference on Information, pp.247-250（2015.11）.

○プロジェクト名

東アジアにおける社会、経済、企業経営

○研究組織

研究代表者：城下賢吾　李海峰

研究分担者：中田範夫、立山紘毅、内田恭彦、有村貞則

○研究の概要と結果

これまで継続している研究プロジェクトでは、企業・病院経営及び消費・市場の視点から、原価計算、ファイナンス、ダイバーシテイ、事業戦略、人材育成、消費と広告,マスメディアなどについて研究をしてきた。中田は、米国ではメディケアに対して1983年よりDRGが適用されてきた。DRGが原価計算の導入・発展に対して影響を及ぼしてきたという評価が一般的である。これに対して、我が国のDPCはそのような影響を与えていなかったことを6回に渡る全国調査より明らかにした。また、中田は総ての病院種類を2種類の公立病院（都道府県立病院と市町村立病院）とそれ以外の病院に区分し、原価計算の導入率、導入されている原価計算の種類、導入対象、DPCの影響などについて分析し、公立病院における原価計算の特徴を明らかにしている。城下は証券市場における個人投資家の非合理的な行動によるパフォーマンスの悪化が自信過剰と気質

効果によるという台湾、中国などの国外のサーベイ研究を紹介している。有村は、国連の障害者権利条約の採択から障害者基本法の改正、さらには「障害を理由とする差別の解消に関する法律」いわゆる障害者差別解消法の制定と「障害者の雇用の促進等に関する法律」（障害者雇用促進法）の改正に至る一連の動きを把握することで、現在注目されている障害者差別の解消と合理的配慮の提供義務に関する法的実態の一端に迫ることを目的としている。内田は深刻な過疎地域において地域全体で独自のコンセプトに基づき観光産業を発達させ、国内だけでなく台湾などアジアを含め多くめ20数万人の観光客を集めるようになった京都府南丹市美山町を調査した。目的は地域全体での事業戦略・推進体制・業績（観光客数・観光収入）の関係を明らかにするものである。美山町は福井県に近い京都府の中山間地域である。特に美山町北村は1990年頃まで特に貧しく、地元の人が「クズ家」と呼ぶ茅葺き屋根の民家が多く残っていた。これが平成4年に文化庁の伝統的建造物群保存地域に指定され、北村全体を「茅葺きの里」として地域おこしを行った。伝統的建造物群に至る前の住民と行政の関係、保存地区になってから北村地区が全体でどのような活動を行ってきたのか、今後に向けての課題は何か、そして観光客数の推移などについて、北村地区全世帯の出資で設立された「有限会社かやぶきの里北村」の現社長勝山（保存地区内にある民宿またべ管理人でもある）、茅葺きの家の保存会会長の中野氏、南丹市役場美山支所平井氏、土産物・食事の販売店店長、他地域から移住してコーヒー焙煎と宿屋（さいふぉん亭）を営んでいる吉岡氏などにインタビュー調査および資料収集を行った。立山は日本における公共放送と、民間放送の状況を法律等の視点から明らかにしている。

○研究成果の一覧

（1）学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

1　中田範夫稿「病院の原価計算に関する調査結果－DPCの採用は原価計算の導入・発展に影響を及ぼしたか－」山口経済学雑誌、第64巻第3・4号、平成27年11月、pp.101-136。

2　中田範夫稿「公立病院における原価計算の特徴－6回の調査より－」山口経済学雑誌、第64巻第6号、平成28年3月。

3　城下賢吾「個人投資家のサーベイ研究」山口経済学雑誌、第64巻第6号、平成28年3月。

4　有村貞則「障害者差別解消と合理的配慮」山口経済学雑誌、第64巻第6号、平成28年3月。

5　李海峰「中国の農村部における消費生活の変化と分析」山口経済学雑誌、第64巻第1・2号、平成27年5月。

6　李海峰 "Symbolic Consumption and Advertisement" Journal of East Asian Studies 東アジア研究、第14号　2016年3月。

7　Kohki Tachiyama, Japanese mass media in change －For further studies and analysis－, 2016.

○プロジェクト名

東アジアに固有の格差の実態と推移に関する総合的・実証的比較研究

○研究組織

研究代表者：植村高久・横田伸子・塚田広人

研究分担者：横田尚俊・石　龍潭・濱島清史・渡邉幹雄・朝水宗彦・角田由佳・陳　建平・袁　麗暉

研究協力者：白藤せい子

○研究の概要と結果

（日本を除く）東アジアの経済発展は急速な新興富裕層・新興中間層の増大を伴いつつ、概して格差拡大として特徴付けられる「新しい格差」の発生と複雑な所得分配の動態的変化が進むという固有の特徴を持つ。これはヨーロッパ諸国やアメリカとは明らかに異質で、たんなる所得の格差を超えて、教育・医療・生活環境・コミュニティのあり方等、非常に多面的なアクセス可能性の違いという特徴を示している。格差拡大が大きなテーマになっている日本も含めて（さらに東アジア以外の諸国との対比も交えつつ)、こうした東アジア諸国の格差について、各国ごとの差異と共通性に注目しつつ、その全体像と側面間のつながりを明らかにすることがこの研究の第1の目的である。

さらに、東アジア諸国の多くが急速な経済発展の途上で急激な高齢化を迎えることが将来の深刻な問題をもたらす可能性が高い。旧来の社会の分解が進んだため高齢化に対処するための公的社会保障制度の整備が必要となるが、ふつう社会保障制度（年金等）は制度創設から定常的な機能に至るまでかなりの期間を要する。この点を考慮すれば、格差が生む問題が高齢化によって顕現・深刻化し、非常に厳しい社会問題に発展する事態が予想される。本研究は格差の実態とともに将来に向けた推移と社会保障制度などの整備状況を検討することを通じて、急速な高齢化の社会的意義を解明することを第2の目的にする。

平成23年に研究期間3年を予定して開始し、当初は平成25年度に取りまとめを行って、26年度には成果を図書として刊行する予定であった。しかし、平成25年9月に本研究の一部である梨花女子大学との共同研究が全学の国際重点連携研究に指定されたため、平成26年度に計画を変更。とりまとめの時期を延期して、さしあたり中核メンバーが梨花女子大学との重点連携研究「非正規労働者と貧困問題の日韓比較研究」に注力することとし、本年度も重点連携研に注力することとした。26年度末には一応の成果を『東亜経済研究』掲載した。これに直接参加しないメンバーは従来の方針通り、格差研究の成果の取りまとめを行っている。

○研究成果の一覧

（1）学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

・Munehiko Asamizu, Fred R. Schumann, Abhik Chakraborty（共著）, 'Rural Tourism for Local Revitalization in Yamaguchi Prefecture'『山口経済学雑誌』63巻6号2015年4月。

・塚田広人「社会的公正の分析視点」『山口経済学雑誌』第64巻第3・4号，267-299，2015年11月

・角田由佳「 看護職員による他職種業務分担の実態：看護管理者に対するアンケート調査から」『山口経済学雑誌』第64巻第3・4号，339-365，2015年11月
・角田由佳「そのデータから何が見える？経済学の視点から「看護職員需給見通し」を読んでみよう！」(1)～(5)『看護：日本看護協会機関誌』67(9), 91-93, 2015年7月，67(10), 91-93, 2015年8月，67(11), 95-97, 2015年9月，67(12), 85-87, 2015年10月，67(13), 91-93, 2015年11月
・袁　麗暉「中国大病医療保険制度－日本の高額療養制度との比較を兼ねて」『山口経済学雑誌』64巻5号，75-99，2016年3月

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）
・Munehiko Asamizu, 'Trends in Developing Areas in Japan,' A. Ibemcha Chanu ed. *Entrepreneurship Development in Conflict Regions*, 43頁～50頁, 2016年　アッサム大学（国際会議記念論集（招待・特別））
研究報告等
・Munehiko ASAMIZU, MAI Jiarui, Denes Peter PERLAKY, 'CHALLENGES OF TOURISM INTERNATIONALIZATION IN RURAL JAPAN'（口頭発表（一般））　INTERNATIONAL CONFERENCE ON BUSINESS, ECONOMICS AND INFORMATION TECHNOLOGY 2016年３月　名古屋大学
・Munehiko Asamizu, 'Globalization of Off-Campus Education in Japan'（口頭発表（一般））The 37th CLASS Annual Research Conference　2016年３月 グアム大学
・Munehiko Asamizu, 'Trends in Developing Areas in Japan'（口頭発表（招待・特別））　International Conference on Regional Conflict and Entrepreneurship Development　2015年11月　アッサム大学
・Takahisa UEMURA 'One Belt, One Road' and Global Capitalism'（口頭発表（招待・特別））2015年度山東大学アジア太平洋研究所会議　2015年10月　山東大学